

「これからの教育」を見据えて ～1to1（1人1台PC）の開始～

令和2年度入学生から「1to1」を開始しました。1人1台のMacBook Airをリース契約してもらい、本校の教育活動の中で活用していくというものです。主体的に情報を集め、考え、表現・発信することのできる生徒の育成を目指しています。



より活動的に

生徒が「表現」する場面が多くなりました。自分の考えを打ち込む、パフォーマンスを動画に撮り共有する、成果をまとめる、今まで以上に生徒が活動することを中心にした授業展開がしやすくなりました。

より便利に

教師－生徒間、そして生徒間での「共有」が容易になりました。ファイルを共有する、意見を共有する、画面を共有する、成果物を共有する、そして体験を共有する。今まで以上に便利に共有ができるようになりました。

より効果的に

1to1の導入は一斉授業の「意味」を考えるきっかけとなりました。個別に学ぶ場面、ペアで教え合う場面、グループで話し合う場面、クラスで議論する場面、今まで以上に効果的な学習ができるようになります。

キャリア 世界に、未来に目を向ける

本校におけるキャリア教育は、今後の長い人生を見通した“キャリア”を意識したものです。授業も含め、20年後、30年後に責任を持つ射程距離の長い教育を目指しています。そこから、今、目指すべき進路が見えて来ます。

2021年度より始まった大学入試制度は、知識重視のセンター試験から、思考力・判断力・表現力を問う試験となりました。本校が伝統的にやってきた、生徒に考えさせる「本物教育」の方向性に、新しい入試の方向が近づいた結果になりました。今後新たな社会に求められる人材を育成すべくカリキュラムづくりに取り組んでいきます。



篠原 梨菜
東京大学法学部
卒業
TBSアナウンサー

卒業生からのメッセージ
附高の素晴らしいところは大きく分けて二つあります。それぞれ高い専門性を持つ先生方のもと、学問の垣根なく多くの分野について学び、広い見識を身につけられるところ、行事や勉強、部活といった様々な活動をやりくりするためのバランス感覚を身につけられるところです。私にとって附高での経験は、学業を中心とした様々な活動に全力投球し、良い意味で欲張りに生きる力の素地となっています。



【進学実績】

本校生の約半数が国公立大学へ進学しています。令和3年度入試では、東京大学に30名（現役16名）、京都大学に7名（現役5名）、東京工業大学に14名（現役12名）、一橋大学に12名（現役9名）、北海道大学に18名（現役6名）、東京藝術大学に5名（現役3名）が進学しています。

また、国公立等医学部医学科は29名（現役18名）、私立大を含めると101名が全国の医学部医学科に合格しています。近年では、ハーバード大学、オックスフォード大学などを含め、海外の大学への合格者も多くなっています。

【高大接続】2021年度現在（ただし、今年度は社会情勢の関係で変更になる場合がございます）

東京学芸大学との高大連携による教員養成プログラムを実施しています。これは「優れた教員の輩出を目的とする高大連携教育システムを構築する」ことを目的とした連携研究です。高3の夏休みに東京学芸大学で教員志望者を対象としてセミナーを開講しています。

東京工業大学との高大連携教育を実施しています。具体的な内容は、「一日東工大生」など東工大で企画されるプログラムへの参加、東工大の教員による出張講義、「サマーチャレンジ」、特別選抜などです。

京都大学と、大学および高等学校における教育の課題に関して、教育研究の充実・発展に資することを目的として連携しています。進学相談会の開催、京都大学が主催する全国規模の課題研究発表大会への参加、本校卒業生との交流会の開催等を検討しております。

Access



電車

東急東横線
「学芸大学」駅下車 徒歩 15 分
東急田園都市線
「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20 分

バス（東急バス）

【渋谷駅】
5 番のりば 渋 32「野沢龍雲寺循環」行き
【目黒駅前】
2 番のりば 黒 06「三軒茶屋駅」行き
【三軒茶屋駅】
（黒 06）「目黒駅前」行き
※いずれも「学芸大学附属高校」下車

2020 年 5 月現在

新たな時代に新たな出発を

新しい時代の進展が新型コロナウイルス感染症の影響で急加速しています。AIやブロックチェーン技術をはじめとするICTの進化と生命科学の発展が大きく世界を変えています。この変化は、日本社会にもその産業構造、社会構造の改革をもたらし、私たち学校社会にも影響を与えています。

端的に言えば、この新たな Society5.0 の社会においては、学んだ知識や技能はあっという間に陳腐化するという事です。そのため、人は生涯にわたり学び続けなければなりません。学校は、大学や大学院も含め、完成を目指す教育ではなく、生涯にわたる「学びの姿勢」と「学

びの方法」を身に着ける場になりました。東京学芸大学附属高等学校は、伝統的に「本物教育」をうたってきた。本物に接し本物の学力を身に着けるといいます。たとえ遠回りであっても、実験・実習とフィールドワークを重視し、生徒間の議論とレポート、プレゼンテーションを大事してきました。それが今の時代、これからの時代に益々真価を発揮することでしょう。

皆さん、生徒として、本校の歴史に参加し、本校の本物教育を共に作り上げていきませんか。

校長 大野 弘

校章の由来

本校の校章は、創立時の昭和29年、初代校長大塚三七雄が泰山木に教育の理想像を見だし、その委嘱を受けて東京学芸大学の美術科教授大坪重周がデザインしたものです。

創立当時、東京学芸大学竹早分校の正面玄関には泰山木の大樹がありました。泰山木は、北アメリカ原産のモクレン科に属する常緑高木で、幹の高さは20mに達します。花は6月ごろ咲き、大きさは径15cmくらいで白く、芳香を放ちます。本校の校章は、この泰山木の花を図案化したもので、中央に「高」の字が配されています。

本校の教育方針はこの泰山木の花・幹・産地などを念頭において起草されており、PTA・後援会の名称も泰山会となっています。



校内 泰山木の花



東京学芸大学附属高等学校
Tokyo Gakugei University Senior High School

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5
TEL 03-3421-5151 FAX 03-3421-5152
<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp/>



清純な気品の高い人間

大樹のように大きく伸びる自主的な人間

世界性の豊かな人間



東京学芸大学附属高等学校
Tokyo Gakugei University Senior High School

2021

